

3 テロ対策

イスラム過激派組織の台頭以来、F B I 等からテロ警戒情報が度々発出され、いつ、どこでテロが発生してもおかしくない状況が続いています。また、米国においては、イスラム過激派以外にも様々な動機・背景による銃撃事件が発生しています。

(1) 基本予防策

被害の予防策として以下の点に注意してください。

- ア 外務省が発出する海外安全情報及び報道等により、最新の治安情勢等関連情報の入手に努める。
- イ 以下の場所がテロの標的となりやすいことを十分認識する。
 - ・不特定多数が集まる場所（観光施設、公共交通機関、宿泊施設、レストラン、リゾート施設、繁華街、イベント会場、複合商業施設、野外マーケット、市場、大学等）
 - ・宗教施設、政府・軍・警察関係施設、欧米関連施設等
- ウ 上記場所を訪れる際には、周囲の状況に注意を払う。不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる、できるだけ滞在時間を短くする。また、その場の状況に応じた安全確保に努める。
- エ 現地当局の指示があればそれに従う。
- オ 不測の事態に備え、訪問先の出入口や非常口、避難経路、隠れられる場所等についてあらかじめ確認する。

(2) 対処法

万一、テロと思われる事件（爆発、銃乱射、車両の暴走等）に遭遇した場合、自身の判断で可能な限り被害を最小限に抑えるよう努めることが重要です。可能な限り速やかにその場から退避する、その場を離れることが困難であればできるだけ安全な場所に隠れると共に、可能であれば治安当局へ通報を行い、支援を要請することを心掛けてください。テロ事件の規模、発生場所等によりその対応は様々ですが、大事な点は以下の通りです。

- ア 爆発音・銃撃音を聞いたら
 - ・その場に伏せる。
 - ・頑丈なものの陰に隠れる。
- イ 事件現場に居合わせたら
 - ・周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう速やかに、低い姿勢を保ちつつ、安全なところに待避する。
- ウ 建物等の下敷きになったら
 - ・体力の温存を心掛ける。
 - ・有害物質を吸い込まない。
 - ・パイプなどを叩き居場所を伝える。
- エ 事件に遭遇したら
 - ・総領事館に連絡する。

【参考】

なお、テロ等に遭遇した場合の対応については、英国では「RUN（逃げる）」・「HIDE

(隠れる)・「TELL (人に知らせる)」, 仏国では「RUN」・「HIDE」・「HELP TOGETHER (助け合う)」など各国事情等に応じた様々な基準が提唱されています。以下の通り, 米国においては, 国土安全保障省が米国市民に対し, 「RUN」・「HIDE」・「FIGHT (闘う)」を提唱しております。「FIGHT」については, 様々な意見があり, 日本政府として必ずしも積極的に推奨するものではありません。

●RUN「逃げる」

事件に気付いたら, 周りが何と言おうと, とにかく現場から遠ざかる方向に逃げてください。その際, 邪魔になる荷物は放置し, 身の安全を第一に行動することが大切です。また, ある程度安全な場所まで避難できた後は, 速やかに「911」へ通報すると共に, 現場へ近付こうとする者たちに状況を伝え, その侵入を阻止してください。

●HIDE「隠れる」

もし, 現場から逃げるができなかった場合は, 速やかに隠れる場所を探し, 身を潜めてください。その際, 可能な限り部屋の照明は消し, 鍵を閉め, 携帯電話をサイレントモードに切り替え, 絶対に物音を立てないように心掛けてください。万一, 隠れる場所がなかった場合, 机や棚の後ろに隠れ, 犯人の視界に自らの姿を現さないようにしてください。

●FIGHT「闘う」

逃げも隠れもできなかった場合, 身の安全を確保するために, 犯人と闘うことを選択してください。その際, 身の回りの物全てを武器とし, 絶対に生き延びるという強い意志のもと, 手段を問わず, 徹底的に犯人に抗戦してください。「撃たれること＝死ぬこと」ではないので, 命ある限り戦い続け, 必ず来る助けを待ってください。

●警察官が到着後

心を落ち着け, 警察官の指示に完全に従ってください。警察は先ずは, 現場の制圧にかかるので, 常に両手を見せ, 叫んだり暴れたりせず, 被害者である旨を全身で表現してください。

万一, 銃撃戦になった場合は, 地面に伏せ, 決して動かないでください。